

平成28年度 妙高市教育研究会社会科部 活動報告

部長 妙高高原南小学校 岡田 和則

1 研究主題 地域に根差した授業改善 ～地域素材の教材化を通して～

2 研究の概要

- ・授業に生かせる地域素材を発掘し、「素材」を「教材」に高める教材開発を行う。
- ・追究意欲を育む学習過程の在り方を探る。(資料、発問・指示、学び合い)

3 研究の実際

(1) 授業に生かせる地域素材の発掘 地域巡検の実施

素材そのものに価値があるもの、教材化することで子どもたちの意欲的な学習を促す可能性を秘めたものなど、妙高市は多くの地域素材に恵まれている。今年度は妙高高原地区を中心に、素材の発掘や地域理解を図る巡検を行った。

① 期日 8月19日(金) ② 参加者 16名

③ 巡検箇所と概要

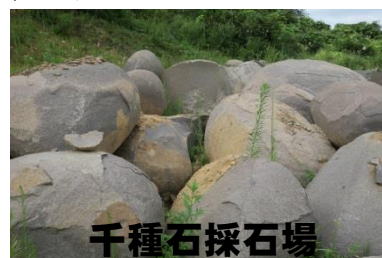
ア) 蔵々発電所：新潟県最古の発電所で、現在も発電を続けている。豊富な関川の水を利用。関川水系の水の利用、環境学習、地域開発等の学習で教材化可能

イ) 清水ブルーベリー園：高原の特性を生かした農業で教材化可能

ウ) 関川関所道の歴史館：北国街道の関所跡。江戸時代の交通で教材化可能

エ) 大洞原：トマトやトウモロコシなど、高原野菜の栽培。地域の開発、地域の特性を生かした農業で教材化可能

オ) 千種石採石場：新井地域で産出される安山岩。墓石として主に利用される。石屋街も形成されている。



(2) 追究意欲を育む学習過程：授業研究会

① 期日 11月8日(火) ② 参加者 14名

③ 単元名 1年社会「身近な地域の調査」 ④ 授業者 新井中学校 小笠原 洋一教諭

⑤ 授業の実際

導入は、小学生までに学習した地形図のきまりについて、モニターで次々に提示し、方位、距離、地図記号の復習を行った。次に、写真に写っている風景から、どの場所から写したものかを地形図から判断させた。写真と地形図を比較し、土地利用の様子や地図記号から類推して、写真を写した方角について考えていった。また、新井中学校区を自転車で巡った様子の作文から、地形図にそのルートを落としこむ作業学習を行った。4人グループとなり、文章を読み込みながら協力して道のりを地形図に書き入れて行った。

協議会では、「学習課題や資料の在り方」「高め合う集団づくり」を協議の視点として、ワークショップ形式で成果と課題を明らかにしていった。参考になる点が多い授業だったため話し合いは盛り上がり、各自授業改善に生かす視点を明らかにすることができた。

4 成果と課題

巡検で地域を知る機会が少なくなり、「地域に根差した教育」が困難になってきている状況の中、参加者は実際に現地で学ぶ重要性をあらためて感じる事ができた。また授業研究会では、地域の地形図の読み取り方を工夫することで、どの生徒も意欲的に学習に参加していた。

今後もこれらの成果を蓄積し、授業改善が図られるよう、取組を進めていきたい。